

## 定時制課程 令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立一橋高等学校定時制課程 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、主幹教諭2名、主任教諭2名 計5名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭(教務担当) 主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主幹教諭(募集対策担当)、 計9名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者(大学理事)2名、保護者の会代表2名、町会代表1名、警察署代表1名、同窓会代表1名、NPO法人代表1名 計8名

### 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年7月書面開催。  
協議委員委嘱、委員紹介、令和元年度学校経営報告及び令和2年度学校経営計画  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第2回 令和2年11月24日(火)16:00～17:00 内部委員9名、協議委員6名  
これまでの教育活動に関する報告  
学校評価アンケートについて  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 令和3年2月書面開催。  
学校評価の報告及び運営に関する提言、協議  
今年度の教育活動に関する報告と次年度に向けての課題の確認
- (2) 評価委員会(第1～2回)の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年11月24日(木)15:30～16:00 内部委員1名、評価委員3名  
アンケート内容の確認、修正。

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

※地域向け設問

【設問1】一橋高校には、昼夜間三部制定時制課程と通信制課程があることを知っている。

そう思う

91.7%

ややそう思う	4. 2%
あまりそう思わない	0%
そう思わない	0%
わからない	4. 2%

【設問 2】 昼夜間定時制には、午前部・午後部・夜間部があり、それぞれ、登下校時間が異なることを知っている。

そう思う	70. 8%
ややそう思う	8. 3%
あまりそう思わない	0%
そう思わない	16. 7%
わからない	4. 2%

【設問 3】 一橋高校定時制課程は、最短3年間で、高校卒業の資格を取得できることを知っている。

そう思う	83. 3%
ややそう思う	0%
あまりそう思わない	0%
そう思わない	4. 2%
わからない	12. 5%

【設問 4】 一橋高校では、進路希望に合った様々な科目を選択し、受講する単位制高校であることを知っている。

そう思う	45. 8%
ややそう思う	4. 2%
あまりそう思わない	8. 3%
そう思わない	25. 0%
わからない	16. 7%

【設問 4】 一橋高校に通っている生徒は、登下校の時に交通ルールを守っている。

そう思う	4. 2%
ややそう思う	25. 0%
あまりそう思わない	20. 8%
そう思わない	12. 5%
わからない	37. 5%

※保護者向け設問

【設問 18】 保護者として本校の教育活動で最も力を入れて欲しいことは何ですか。次の中から1つ選んでください。

学習指導	25.1%
生活習慣やマナーの指導	30.0%
進路指導	29.1%
行事や部活動の活性化	4.7%
わからない	0.5%
未記入	8.4%

## 令和2年度 学校評価アンケート 分析・検証結果

### 1 回収率について

前年度と比較して、生徒は8%下降し今年度は74%であった。保護者は4%上昇し37%であった。

生徒へのアンケートは3学期の始めに実施し、また、当日欠席した生徒にも後日実施するよう担任がこまめに働きかけた。保護者へのアンケートは、一昨年度から12月下旬に各家庭へ郵送することにしたが、この方法が認知され始めていると考えられ、回収率が上昇しているので次年度以降もこの方法を継続する。

### 2 回答内容

※ 肯定的な回答 → 1：そう思う と 2：ややそう思う を加えた数値

※ 否定的な回答 → 3：あまりそう思わない と 4：そう思わない を加えた数値

※ 地域住民 → 回収数24名分のうち、半数ほどは、この地域に居住してから比較的年月の浅い方々である。

※ 設問の下の数値は、左から前々年度→前年度→今年度の肯定的な回答の数値であり単位は%である。

【設問 1】(教育課程・学習指導) 基礎的学力が身に付く授業が行われている。

生徒 71→78→75 保護者 77→76→74 教職員 90→93→90

生徒の肯定的な意見が前年度より3ポイント下降しているが、教職員との差は約15ポイントある。全ての授業において達成目標を明確に示し、生徒に「わかる」「できる」を実感させる授業を継続することが必要である。

【設問 2】(教育課程・学習指導)

授業の中で、自分の考えを言うことや他の生徒と話し合いをすることが増えている。

生徒 64→63→66 保護者 48→53→50 教職員 66→61→54

教職員の肯定的な意見が下降したのは、新型コロナウイルス感染症で授業形態がアクティブ・ラーニングの授業がしにくいということが原因であると考えられる。今年度の状況でいかにアクティブ・ラーニングの授業をしていくかを検討工夫する必要がある。

【設問 3】(学習指導・施設設備) 図書館は利用しやすい。

生徒 64→60→54 保護者 54→48→48 教職員 44→32→39

生徒の肯定的な意見は下降している。図書館運営や図書委員の活動は活性化しているが、生徒が積極的に図書館を活用するよう、組織的な読書指導や、授業で図書館を活用する取組を進めていく。

【設問 4】(教育課程・進路指導) 進路希望に合った科目を選択し、受講できる。

生徒 82→84→78 保護者 88→83→80 教職員 84→75→82

生徒及び保護者の肯定的な意見は下降した。新型コロナウイルス感染症の不安さからそう考えたと考えられる。

【設問 5】(進路指導)

将来の進路を考える授業や、進路決定に結びつく指導が行われている。

生徒 76→78→73 保護者 78→75→75 教職員 87→78→74

三者の間で肯定的な意見の割合にほぼ差はないが、今年度の就職指導・進学指導について分掌及び学年で振り返りを行い、次年度に生かしていく。

【設問 6】(生活指導) 正しい生活習慣を確立し、きちんと登校するよう指導している。

生徒 64→65→65 保護者 73→78→73 教職員 74→53→64

生徒は変わらず、保護者は5ポイント、肯定的な意見が下降したが、教職員の肯定的な意見が11ポイント上昇した。組織的に登校を促す指導を行っているが、予想した結果が得られていないことが理由であると考えられる

【設問 7】(生活指導) 生徒が安心して安全に学べる学校である。

生徒 65→65→69 保護者 83→87→78 教職員 89→83→85

保護者の肯定的な意見が9ポイント下降した。これも新型コロナウイルス感染症の影響と考えられる。生徒の問題行動の早期発見と未然防止教職員の迅速な情報共有に組織的に取り組み続ける。

【設問 8】(生活指導) 喫煙やいじめなどの生徒の問題行動にきちんと対応している。

生徒 68→69→62 保護者 73→68→58 教職員 92→92→87

肯定的な意見の割合に大きな変動はないが、生徒と教職員の差が25ポイント、保護者と教職員の差も29ポイントである。校内外の巡回を行って生徒の状況を把握し情報を共有することで、問題行動の未然防止に努める。

【設問 9】(体罰) 体罰発生件数0件の学校である。

生徒 61→62→63 保護者 61→67→55 教職員 95→88→93

生徒と教職員との差が30ポイント、保護者と教職員との差も38ポイントある。教職員が5ポイント上昇しが、教職員の体罰に対する意識が高まったと考えられる。いかなる時にも自身の言動に細心の注意を払って生徒の指導にあたるよう組織的に働きかける。

【設問 10】(特別活動) 生徒は体育祭や文化祭などの学校行事によく取り組んでいる。

生徒 68→72→54 保護者 83→91→49 教職員 79→76→36

三者とも大きく下降したが。新型コロナウイルス感染症により体育祭や文化祭が中

止になったからだと考えられる。

【設問 1 1】(特別活動) 生徒は部活動によく取り組んでいる。

生徒 55→56→68 保護者 65→63→66 教職員 55→46→94

保護者の肯定的な意見は前年度とほぼ差はないが、生徒と教職員の肯定的な意見は上昇している。部活動に対する生徒の意識が少し上がっているようだ。加入している生徒の取組は良好であるため、教職員の肯定的な意見が高い値になったと考えられる。

【設問 1 2】(教育相談体制) 心身の悩みなどの相談にきちんと応えてくれる。

生徒 65→68→70 保護者 67→73→73 教職員 89→92→57

生徒・保護者について肯定的な意見にそれほど変わりはない。教職員の肯定的な意見が 35 ポイント下降したのはやはり新型コロナウイルス感染症により生徒との直接的な関わりが少なくなってしまったのではないと思われる。保健相談部を中心に教育相談体制を充実させ、次年度も更に生徒の課題解決に向けて、外部の専門機関との連携を図りながら取り組んでいく。

【設問 1 3】(学校生活) 学校生活は充実している。

生徒 66→69→54 保護者 78→83→56 教職員 74→59→59

生徒と教職員については昨年度とあまり変化はなかった。保護者は 27 ポイントの下降であった。学校に登校できない期間もあり保護者としては学校生活の充実につながらなかったようである。

【設問 1 4】(環境整備) 校内美化は行き届いている。

生徒 49→56→69 保護者 77→81→76 教職員 68→71→84

新型コロナウイルス感染症により、校内のいたるところに殺菌のためのアルコールを設置したり、手洗いやうがいの推奨等により生徒と教職員の肯定的な意見の上昇につながった。

【設問 1 5】(学校経営) 生徒や保護者との連絡を大切にしている。

生徒 60→67→74 保護者 78→75→77 教職員 87→85→98

三者とも肯定的な意見が上昇している。新型コロナウイルス感染症により生徒や家庭への密な連絡が増えたことが原因として考えられる。今後もより良い連絡体制を目指す。

【設問 1 6】(地域連携) 地域の会社や町会等と協力した行事や授業を行っている。

生徒 63→63→61 保護者 77→71→65 教職員 79→80→66

地域の方々とも新型コロナウイルス感染症により、連絡・話し合い等が少なくなり、行事の中止などで肯定的な意見が下降したと考えられる。

### 3 地域からの回答について

#### (1) 地域向けの設問

【設問 1】 昼夜間三部制定時制課程と通信制課程があることを知っている。

認知度（そう思う・ややそう思う）66→96→90

【設問 2】午前部・午後部・夜間部があり、登下校時間が異なることを知っている。

認知度（そう思う・ややそう思う）66→72→93

【設問 3】最短3年間で、高校卒業の資格を取得できることを知っている。

認知度（そう思う・ややそう思う）72→72→79

(2) 生徒・保護者・教職員と同じ設問

(進路指導) 【設問 4】 20→54→48

(生活指導) 【設問 6】 26→39→59 【設問 7】 23→50→76 【設問 8】 17→50→59

(体罰) 【設問 9】 17→39→55

(特別活動) 【設問 1 0】 77→96→97 【設問 1 1】 86→93→93

(学校生活) 【設問 1 3】 20→25→62

(地域清掃) 【設問 1 4】 97→100→93 (地域連携) 【設問 1 6】 80→57→93

(3) 回答内容の分析

・【設問 1】から【設問 3】の回答結果から、本校のシステムへの認知度が安定してきたことがわかる。

・【設問 4】以降については、【設問 4】・【設問 1 4】を除いて、肯定的回答の数値が上昇しており、特に、生活指導に関する設問に対する肯定的数値が2年連続して上昇した。しかし【設問 5】・【設問 8】の否定的な意見の割合は、それぞれ、31ポイント・38ポイントであり、今後も、校内外の巡回を継続し、マナー違反や問題行動の未然防止に努める。

・【設問 1 4】の地域清掃の認知度は安定しており、【設問 1 6】の地域連携への肯定的回答の数値も前年度より36ポイント上昇している。引き続き、地域の活動について生徒への周知を徹底し、参加を呼びかけていく。

#### 4 保護者向けの設問

【設問 1 7】 保護者として本校の教育活動で最も力を入れて欲しいことは何ですか。次の中から1つ選んでください。

学習指導 26→32→25

生活習慣やマナーの指導 32→29→30

進路指導 32→32→29

行事や部活動の活性化 3→3→4

わからない 及び 無回答 7→3→21

学習指導・生活習慣やマナーの指導・進路指導に寄せる期待の差が前年度より更に小さくなっている。